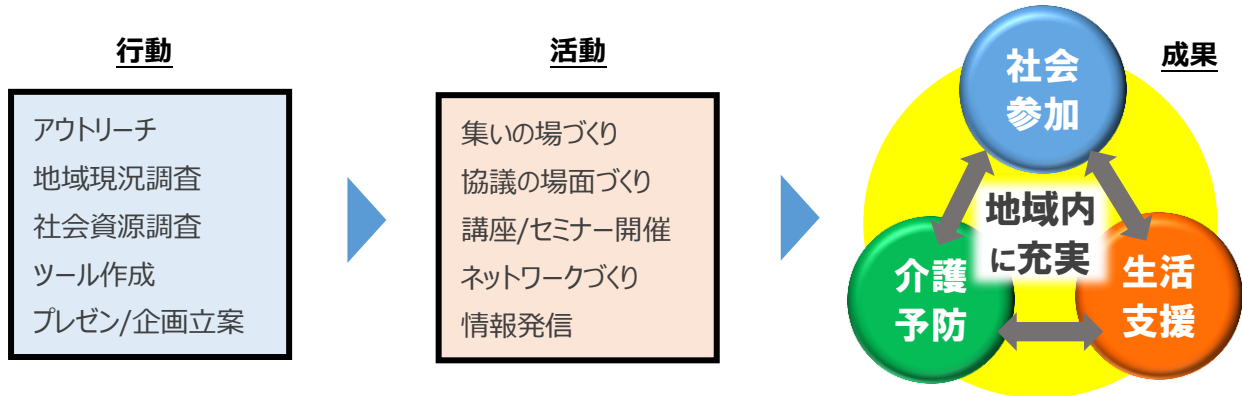


# 生活支援コーディネーター配置業務報告（2018年1月現在）

## 1. 業務概要

目的：超高齢社会の課題対応として、地域における『介護予防』と『生活支援』の取り組みを充実させる

内容：地域の現況をアウトリーチにて把握し、住民が主体的に必要な資源を創出するためのコーディネートを実践

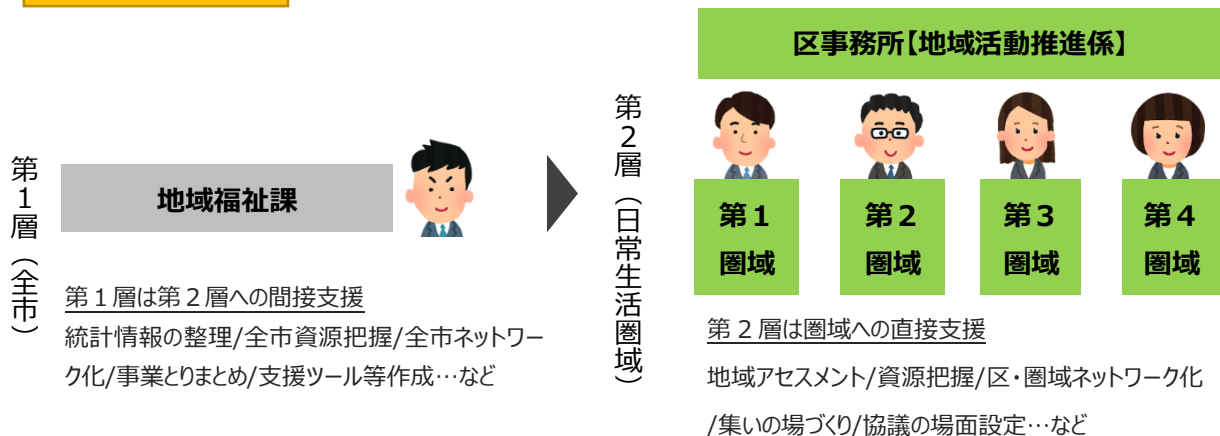


**社会的インパクト** 地域活動が活発になり、社会参加の機会や介護予防/生活支援の取組みが充実する  
→在宅生活ニーズの実現、要介護等認定者や介護保険給付費の減少にもつながる

## 2. 事業体制

- ・第1層生活支援コーディネーター（1名）・・全市エリアを担当
- ・第2層生活支援コーディネーター（7名）・・日常生活圏域（概ね2中学校区）を担当
  - ※H29年度は中区（3圏域）・南区（4圏域）の2区に先行配置
  - ※コミュニティワーカー（CoW）、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の役割を併せ持つ
  - 「日常生活圏域コーディネーター」として配置
  - ※平成30年度は、対象地域を拡充し、第1層に1名、第2層に12名の計13名を配置予定

～推進体制図～



### 3.実践内容（2017.4～2018.1）

アウトリーチを中心に地域とのコミュニケーション（地域活動への参加 / 会議へ出席 / 個別面談など）を重ね、地域の現況調査や社会資源情報の整理を行い、地域に必要な場面づくりに取り組んでいる

#### ■.地域現況調査

- 1.地域特性の把握や分析/地域組織が抱えている課題や必要な資源の確認→アセスメントシートを作成
- 2.統計情報の活用（国勢調査データや高齢者人口データを活用し、校区単位での経年比較等を実施）

#### ■.社会資源調査

##### 1.施設等資源（ハード面）の整理

◎福祉/医療/教育/会館/公園/交通機関/コンビニ/スーパー/金融機関/郵便局…等をリスト化

##### 2.取り組みや場などの資源（ソフト面）の整理

◎多様な協働資源のリスト化（※協働資源＝ヒト・モノ・カネ・場所・コト…で協力可能な主体）

・94件集約【内容：移動販売・各種講座・空きスペース提供・食材提供・備品レンタルなど】※2017.12月末時点

主体別内訳【1位：企業 **51%** 2位：法人 **23%** 3位：任意団体 **11%** …ほか】

※協働資源を可視化するポータルサイトの構築を、大阪府立大学\_市民活動Voセンターなどと検討中

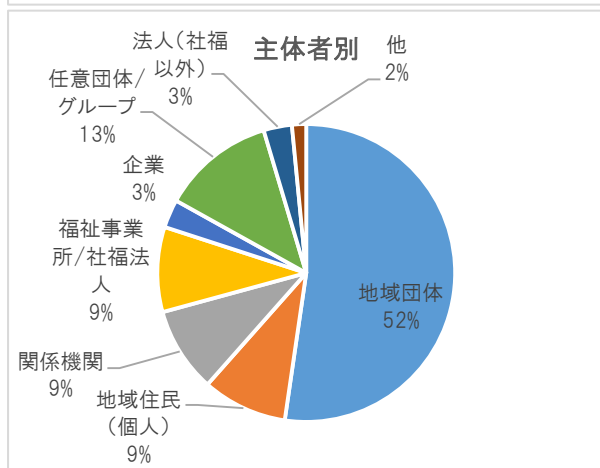
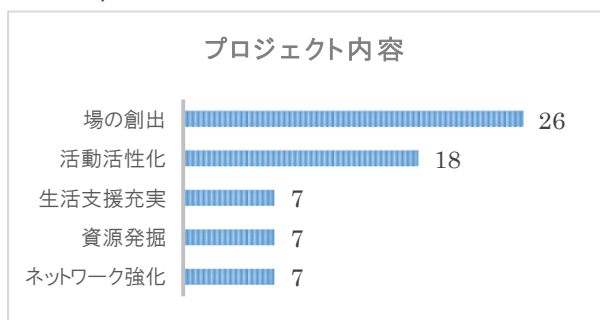
#### ■.情報発信

##### 1.第1層が中心となり、多様な主体への事業理解や問題提起を促す実践報告を実施

・17回/800人【地域団体：4回/220名 福祉関係者：9回/460名 企業：1回/30名…ほか】

#### ■.社会参加/生活支援/介護予防につながる場面づくり

把握/関与しているプロジェクト 65件 【中：23件 / 南：42件】 ※2017.12月末時点



#### 【事例：地域と法人が協働ですずめる介護予防】

##### 発端

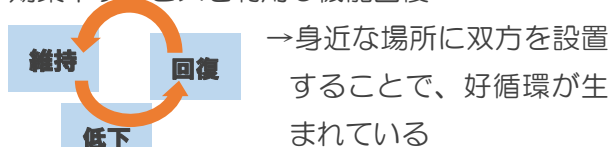
- ・地域「元気なシニア層を増やしたい」
  - ・法人「地域にもっと貢献していきたい」
- コーディネーターが把握し、話し合う場面を設定

##### 創出した資源

- ・住民主体の介護予防教室（喫茶活動と併設）
  - ・法人主体の短期集中通所サービス
- 上記2つを身近な場所（地域会館）で実施

##### 結果

機能低下が見受けられる地域活動参加者が、短期集中サービスを利用し機能回復



## 校区内のシニアを元気に ～校区福祉委員会と社福法人がコラボ～

**地域側：「校区内の高齢者を元気にしたい」**

**法人側：「地域に貢献していきたい」**

発見

コーディネーターが双方の想いを聴き取り、話し合いの場を設定

**内容：それぞれの役割でできることは何か？**

協議

法人「専門職を地域会館へ派遣し、総合事業を活用した通所事業（短期集中通所サービス）」

地域「サロン活動のない町会への活動創出や、通所事業の受け皿づくり」

**活動内容：校区シニア元気プロジェクト**

企画

コンセプト：地域や法人などが一体的に介護予防の場をつくり、住民の社会参加を促進する

### 主体者の調整

無理せずに現段階でできることを校区福祉委員会の役員と協議。喫茶との併設を企画。

校区福祉委員会の担い手は新規に対する負担感が大きかったため、既存の喫茶活動との併設を提案

### 関係者（応援）づくり

プロジェクトに対して協力してくれる組織や機関を調査・調整。

保健センターへ主旨説明し、介護予防や自主グループについて情報交換を実施。

### 地域への理解促進

プロジェクトの主旨や、会館を使用した短期集中通所サービスなどの理解を得る

校区自治連合会定例会、校区福祉委員会定例会などで説明。法人によるサロン等での事業体験会などを実施。

調整  
コーディネーター

毎月 2 回 住民主体の体操教室  
(主体:地域 協力:法人)

毎週 1 回 法人主体の短期集中通所  
(主体:法人 協力:地域)

創出

### 住民の参加者が増加

喫茶のみの時より、参加者数が増加。体操を楽しみにしている住民も多く、喫茶との相乗効果が見受けられます。

### 担い手のスキルアップと活躍

短期集中通所で学んだりハビリ体操やコッカラ体操を男性シニアの担い手中心に実施。住民からも好評です。

### 介護予防の促進

専門職による指導のもと、体操習慣が身につく、身体機能の向上や地域活動への参加につながった事例が複数あります。

# 多世代が集える場づくり ～施設空きスペースを有効活用～



発見

## 発見資源：場（デイサービス事業所）

事業所に空きスペースがあり、デイサービス終了後の夕刻からは、施設全体が利用可能となる。

協議

## 内容：施設の想いと地域の現状（ニーズ）

施設「多くの住民に場として活用してもらいたい」

地域「学齢期を対象とした活動が少ない」

「地域が主体（中心）となって活動するのはしんどい」

## 活動内容：施設が主体となって開催する子ども食堂（学習と食事のある集いの場）

企画

コンセプト：こどもだけでなく、多世代が集まる場の創出する

### ヒト（協力者）

学習支援を「元教員」や「大学生」が実施。準備や配膳などを「住民ボランティア」が実

校区福祉委員会、民生委員会などへ複数回調整。他、大学のボランティアセンター、社協ボランティア相談コーナーと調整。

### モノ（食材寄付）

お米や漬物などの食材を企業の善意を募り、寄付提供を受ける

構築しているネットワークを駆使し、寄付が可能な企業や店舗へ主旨を説明し、地域貢献としての協力を依頼

### コト（情報発信）

小学校へ調整し、生徒へのチラシ配布と申込み受付が実現

施設長とともに小学校へ訪問し、校長先生へ主旨の説明と協力を依頼。結果、受付ポストの設置等の許可を得る

調整  
コーディネーター

毎月1回 16:00～ 多世代が集まる「子ども食堂」を実施（主体：施設 協力：地域）

創出

### 高齢者の社会参加

担い手となるボランティア（高齢者）が活動に参加することで社会参加となります。子どもから元気もらえる！と好評。

### 高齢者の生きがい創出

参加者の子どもたちが、施設利用者向けにメッセージを書いています。見た高齢者からは笑顔がうまれています。

### 地域のつながりづくり

多世代が集まる場として、地域内の交流が深まっています。施設と地域の距離も縮まり、地域の拠点が1つできました。